

ライフサイエンス

MONTHLY LIFE SCIENCE FOR ALL LIVING THINGS ON THE EARTH

特集

キーワード・ネットワーク'88

人間学=生命学への招待

corps 身体
中川 米造
金塚 貞文
宮田 登
大橋 良介
山形 孝夫
波平 恵美子
藤崎 和彦
大西 光弘
梶原 景昭

culture 文化
大沼 忠弘
上野千鶴子
浦 達也
宮西 照夫
末原 達郎
熊谷 真菜
蟻塚めぐみ
井上 章一
日高 敏隆
鎮目 恭夫
池田 光穂

Umwelt 世界
森 毅
柴谷 篤弘
山元 皓二
奥本大三郎
松村 洋
中島 らも
正高 信男
新妻 昭夫
西丸 震哉
長野 敬

Geist 精神
沢田 允茂
大村 英昭
臺 弘
井村 宏次
堀切 直人
ひさうちみちお
和田 高幸
高田 衛
丸山圭三郎
立川 昭二



7
1988
JULY
680 YEN

LS
7

特集◎キーワード・ネットワーク'88
人間学=生命学への招待

ユニー美術
岩中 正清
西村 正泰
重水つちみ
マツトヨ
安藤早穂子
岸田真穂子
黒田 三和
三木 昭
松井 昭彦
藤 由理恵
高見 晴彦
藤田 宗子
藤井 明子
加藤 三樹
藤松 玉枝
三原 伊知子
田中 啓子

MONTHLY INNER MIND
遊心倶楽部

ARWINISM



進化——それは、大いなる生命の神秘。
生きとし生けるものは、新たな環境に出会ったとき、
自らの姿を変えて、爆発的な生命の跳躍を見せる。
その美しさと強さ。そして、意外なほどのしなやかさ……。
今、21世紀を迎え、
消化器・循環器系の専門医薬品メーカーから総合医薬品メーカーへ。
フナイ薬品は、あざやかな進化の軌跡を描きます。



FUNAI PHARMACEUTICAL CO., LTD.

フナイ薬品工業株式会社

〒540 大阪市東区釣鐘町2丁目40番地 ☎(06)941-0111

超能力は誰にでもあつて

井村宏次

超心理学

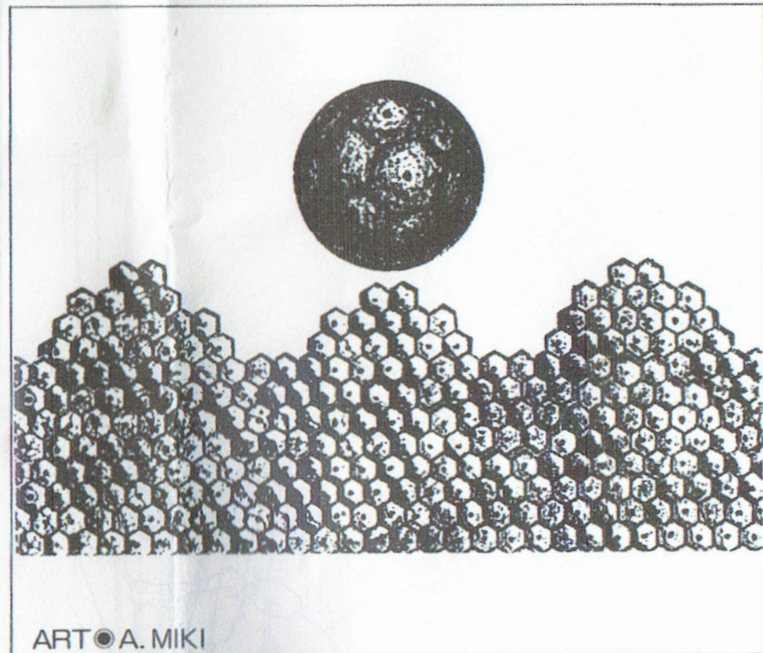
一昔前に、超能力はアルカ、ナイカ、という論議がテレビを主戦場にくり返されたことがある。いささか悲愴感にあふれたお決まりの肯定論と、一見科学性をよそおった敵意むきだし否定論が感情的に衝突するシーンが衆目を集めたものだ。ブラウン管に写し出される映像はすべて真実を伝える、という誤まった思いこみに世の中が浮かされていた時代であつて、まさしく超能力ネタは虚像の世界に真実らしさをちらつかせる恰好のテーマではあつた。

昨今、この手の角度から超能力があつかわれることが少なくなつたのは、世間の気配に「超能力、あつてもいいんじゃない」という広範囲に浸透した柔軟な思いがあるからだろう。しかし、いずれにせよ、世間の風向きに関係なく、過去も現在も「超能力の真実」が認識されたいはいい難い。もつとも世間の認識や学界の認知の有無と、「ことの真実」が無関係であることはいうまでもない。日本におけるこの分野の実験的研究が筆者のグループなど、一握りの人びとによってだけ行われている限り、公的認知への道は遠いといわざるをえない。

何よりもまず海外の正統的研究の紹介を、というわけで筆者らは工作舎の「海外超心理学研究シリーズ」として、西欧の超心理学の知を「サイ・パワー」、「パラサイコロジー」、「ドリーム・テレパシ」の三著に代表させ、訳出の作業を完了し、すでに出版された。この分野の西欧の知は以上の三著に尽きるが、過去数十年にわたる研究によると、われわれひとりひとり、万人に超能力が潜在するのではまちがいない。むしろ、超能力の有無をいうのに、その潜在力の個人別の具現特性をさしているにすぎないのだ。最近の研究によれば、超能力を特別視するのではなく、人間の生命活動の維持に大きく寄与しているという局面が白日のもとに曝されつつある。

UCLAデイビス校の心理学者C・T・タートは、PK作用(広義の念力的エネルギー現象)は脳内の生理過程に用いられている重要な機能であると考え、サイを特別視せず大脳生理学の分野に「発見しよう」とさえる(「サイ・パワー」)。また、R・スタンフォード、J・オノートン、M・ウルマンら各第一線研究者は声をそろえて、サイ機能が主として無意識

領域に根城を持つ生命活動の発現と維持に不可欠な作用であり、われわれはその真実の姿を「心像」、「統合知」、「それと気づかぬ動作」等を通して、「体験しつつある」のだという。



ART © A. MIKI

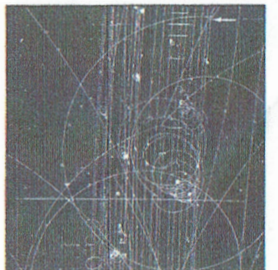
精神

GEIST

KEYWORD

NETWORK

人間学=生命学



超常現象と日常生活

超能力-UFO-オカルト

和田高幸

JFCU

古来超常現象は闇の世界の出来事として扱われ、公然と人に語ることはばかられてきた。しかし、一九六〇年代後半、「超能力者」ユリ・ゲラーがTVに登場しスプーン曲げや念写の妙技を披露して以来、闇の世界の出来事も日常の明るみのなかで論議される対象となったのである。当時、ユリ・ゲラーに触発されて全国に突如出現した超能力少年たちはマスコミを大いに賑わせたのだが、ウソかマコトかという二者択一を迫る安直な科学主義によって超能力は否定され、ブームは一旦終息した。とはいえものの、予知、透視、念動、心靈手術、空中浮揚、テレパシー、UFO現象など摩訶不思議な現象がこの世から消え失せるわけではない。人々は自ら体験した超常現象を伝えようと、また専門家による解説を求めはじめたのである。それが今日に至るオカルト・ブームを支えてきた要因である。

原因となっているのはまさにこの点においてであり、犯罪と紙一重というキワドサすらもついていたのだ。ところが映像媒体の大衆化によって、日常から非日常を廻る舞台装置の公開が一般化した現在では、超常現象は、ある程度身近な現象として日常生活に溶けこんでしまった。つまり、マスメディアによる情報化が進んだために、「超常」の規模はだんだん縮小されてきたというのが実情である。

今日、古い記事のない雑誌はないといえるほどオカルト・ブームは定着したが、だからといって、われわれの日常生活に安心立命が得られたわけではない。闇の世界の情報を日常世界に利用しつくせるほど人智は聡明ではないのだ。われわれの日常生活が予測困難な不確実性に支配

されている以上、闇の中にある情報は未だ光を放っている。われわれは常に新しい情報を求め続けてやまないが、「未知」が解明されればされるほど「未知」の領域は拡大し情報量は加速度的に増殖することを知っておかねばならない。

日常の情報処理に追われていると、心底のめりこむような非日常世界との交流が困難になるのは誰の目にも明らかだ。巧みな情報コントロールが個人生活において実現しない限り、超常現象は遠くばかりである。



51



精神

GEIST

KEYWORD

NETWORK

人間学=生命学